

令和5年度かながわコミュニティカレッジ講座編成の考え方について

1 メインテーマの策定について

(事務局案) **地域での助け合いが広がる社会づくりを目指して**

(本メインテーマについて)

今、地域コミュニティの必要性・重要性が改めて認識されています。地域には様々な課題があり、様々な団体(町内会、自治会等)による活動が展開されています。その中で、住民相互・団体相互で力を出し合って、地域で助け合い、支え合いながら地域課題の解決に取り組むことが求められています。かながわコミュニティカレッジは、「点」としての活動だけでなく、「面」としての活動を広げるために、地域コミュニティの活性化につながる活動の担い手の育成を目指します。

※令和5年度講座企画提案並びに運營業務の編成に際しての全体的なテーマとする。

ただし、メインテーマはかながわコミュニティカレッジとして人材育成を行っていく上での方向性を指し示すものであり、全ての講座において必ずしも適用されなければならないものではない。県民のニーズに応じた特定の課題の解決につなげる講座の開催も可能である。

2 講座の編成について

(1) 必ず実施すべき講座

次の7つの分野(その他を除く)において、特定の分野に偏りがないように提案すること。

その際、可能な範囲で「入門(基礎、初級)講座」と「専門(実践、上級)講座」を組み合わせるといった工夫をすること。

また、県民ニーズを的確に把握した講座編成とし、必要に応じて同一講座の複数回開催などの工夫をすること。

①地域のつながり・支え合い ②災害救援・減災・防災 ③団体運営・ICT活用
④保健・医療・福祉 ⑤子どもの健全育成 ⑥人権 ⑦環境・SDGs (⑧その他)

注1) 分野②「災害救援・減災・防災」については、災害ボランティア活動を新たに始めた人のきっかけとして基本的な活動内容や活動にあたっての留意事項等を学べる「入門講座」と、ボランティアコーディネーターを養成することを目的とする「専門講座」を必ず提案に加えること。

注2) 分野③「団体運営・ICT活用」の例:ICTを活用して地域を活性化する講座など

(2) 可能な範囲で考慮すべき事項

ア ワークショップや活動現場を体験できる現地実習、社会調査の活用など実践的なカリキュラムを可能な範囲で盛り込むこと。

イ 提案する講座が全体のテーマの趣旨に沿う内容となるよう、「多世代」「地域での助け合い」「地域活動への参加」などの要素を可能な範囲で盛り込むこと。

なお、「多様な背景を持った人が生きやすい社会を目指す」視点についても十分に考慮すること。

ウ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「新しい生活様式」が求められる状況下での団体、法人等のニーズを踏まえた講座を可能な範囲で盛り込むこと。

令和5年度かながわコミュニティカレッジ講座編成の考え方について

資料4(別紙)

令和4年度 講座編成の考え方	令和4年度 事業計画への反映状況	運営委員会意見、検討	令和5年度 講座編成の考え方
<p>●メインテーマ コロナ禍を通じて見えた協働のまちづくり～多世代がつながる小規模ネットワークの構築に向けて～</p> <p>●本メインテーマのねらい</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍により顕在化した課題や新しい生活様式への対応に積極的に取り組む地域プレーヤーの育成・発掘・世代を問わない団体間の新たなつながりづくりを目指す。	<p>・コロナ禍での協働のまちづくりに向けて、地域・社会の課題解決に取り組む人材を掘り起こす入門講座と受講者の活動状況に応じて実践的な能力が身に付けられる専門講座を効果的に組み合わせ、学びの循環を生み出す講座編成となった。</p>	<p>(昨年度第3回運営委員会 堀田カレッジマスターコメント)</p> <p>「NP0のように「点」としての活動を広げるだけでなく、地域（自治会、町内会等）での「面」としての活動にニーズが移っている。</p> <p>(『さあ、言おう』(5月号))</p> <p>「社会の状況も変わり、多様な社会のニーズに応えるためにも、地縁での助け合いを活性化していく必要性に重点が進み始めている。リードして進めることが県としての役割でもある」</p>	<p>●メインテーマ (事務局案) <u>地域での助け合いが広がる社会づくりを目指して</u></p> <p>●本メインテーマについて</p> <p>今、地域コミュニティの必要性・重要性が改めて認識されています。地域には様々な課題があり、様々な団体（町内会、自治会等）による活動が展開されています。その中で、住民相互・団体相互で力を出し合って、地域で助け合い、支え合いながら地域課題の解決に取り組むことが求められています。かながわコミュニティカレッジは、「点」としての活動だけでなく、「面」としての活動を広げるために、地域コミュニティの活性化につながる活動の担い手の育成を目指します。</p>
<p>●必ず実施すべき講座</p> <p>次の7つの分野（その他を除く）において、特定の分野に偏りの無いように提案すること。</p> <p>その際、可能な範囲で「入門（基礎、初級）講座」と「専門（実践、上級）講座」を組み合わせるなどの工夫をすること。</p> <p>また、県民のニーズを的確に把握した講座編成とし、必要に応じて同一講座の複数回開催などの工夫をすること。</p> <p>①地域のつながり・支え合い ②災害救援・減災・防災 ③団体運営 ④ICT活用 ⑤保健・医療・福祉 ⑥子どもの健全育成 ⑦人権 (⑧その他)</p> <p>「分野② 災害救援 ・減災 ・防災」については、災害ボランティア活動を新たに始めたい人のきっかけとして基本的な活動内容や活動に当たっての留意事項等を学べる「入門講座」と、災害ボランティアコーディネーターを養成することを目的とする「専門講座」を必ず提案に加えること。</p> <p>「分野④ ICT 活用」の例 : ICT を活用して地域を活性化する講座など</p> <p>「分野⑧ (その他)」の例 : 環境に配慮した活動について考える講座など</p> <p>これまでボランティア活動の経験がない方がなるべく多く参加し、その後の入門講座につながるような講座を提案すること。</p> <p>なお、分野については問わない。</p>	<p>7つの分野を網羅し、人材を掘り起こす入門的な位置付けとなる講座と、入門講座を修了した方や活動経験者のスキルアップにつながる専門講座を組み合わせで編成を行った。</p> <p>①地域のつながり・支え合い 主催6講座 ②災害救援・減災・防災 主催3講座・連携1講座 ③団体運営 主催5講座 ④ICT活用 連携1講座 ⑤保健・医療・福祉 主催4講座・連携2講座 ⑥子どもの健全育成 主催3講座・連携4講座 ⑦人権 主催2講座・連携1講座 ⑧その他 連携1講座</p>	<p>・③団体運営と④ICT活用について、親和性が高いことから、統合する。</p> <p>・昨年度運営委員会において、「今の時代、やはり地球規模の「環境」というところは、外せないテーマなのではないかと思う」という意見を考慮し、⑦のテーマを追加</p> <p>・ボランティア活動未経験者層の参加促進講座については、主催、連携講座に位置づけない</p>	<p>●必ず実施すべき講座</p> <p>次の7つの分野（その他を除く）において、特定の分野に偏りの無いように提案すること。</p> <p>その際、可能な範囲で「入門（基礎、初級）講座」と「専門（実践、上級）講座」を組み合わせるなどの工夫をすること。</p> <p>また、県民ニーズを的確に把握した講座編成とし、必要に応じて同一講座の複数回開催などの工夫をすること。</p> <p>①地域のつながり・支え合い ②災害救援・減災・防災 ③団体運営・ICT活用 ④保健・医療・福祉 ⑤子どもの健全育成 ⑥人権 ⑦環境・SDGs (⑧その他)</p> <p>「分野② 災害救援 ・減災 ・防災」については、災害ボランティア活動を新たに始めたい人のきっかけとして基本的な活動内容や活動に当たっての留意事項等を学べる「入門講座」と、災害ボランティアコーディネーターを養成することを目的とする「専門講座」を必ず提案に加えること。</p> <p>「分野③ 団体運営・ ICT 活用」の例 : ICT を活用して地域を活性化する講座など</p>
<p>●可能な範囲で考慮すべき事項</p> <p>(ア) ワークショップや活動現場を体験できる現地実習、社会調査の活用など実践的なカリキュラムを、新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みながら可能な範囲で盛り込むこと。</p> <p>(イ) 提案する講座が全体テーマの趣旨に沿う内容となるよう、「多世代」「若者の地域社会への参加」などの要素を可能な範囲で盛り込むこと。</p> <p>なお、「多様な背景を持った人が生きやすい社会を目指す」視点についても十分考慮すること。</p> <p>(ウ) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「新しい生活様式」が求められる状況下での団体、法人等のニーズを踏まえた講座を可能な範囲で盛り込むこと。</p>	<p>・講師による講義に加え、実践者による活動事例紹介、ワークショップ、社会調査の活用など、実践的なカリキュラムを組んだ講座編成となっている。</p> <p>「防災教育ファシリテーター養成講座」 「共助の地域づくりを推進する講座」 「地域活動リーダー養成講座 ～地域活動の課題と役割を理解し、実践に向けてアドラー心理学の対人援助のスキルを学ぶ～」等</p> <p>・「多世代」「若者の地域社会への参加」などの要素の講座を選定している。また、「多様な背景を持った人が生きやすい社会を目指す」視点を含む講座を選定している。</p> <p>「多世代共生時代を生きる ～多様に進む市民活動や大学等との地域連携～」 「外国につながる子どもの学習ボランティア入門講座」 「『障害』を私たちで解決しよう!!! 世界基準の障害教育=障害平等研修 (DET)を受けてから、車椅子ユーザー・視覚障がい者と街歩きをしてみよう」 等</p> <p>・オンライン講座は、可能な限り対応している。</p>	<p>(ア) 新型コロナウイルス感染拡大防止の文言を削除</p> <p>(イ) メインテーマに合わせて変更</p> <p>(ウ) 令和4年度と同様</p>	<p>●可能な範囲で考慮すべき事項</p> <p>(ア) ワークショップや活動現場を体験できる現地実習、社会調査の活用など実践的なカリキュラムを可能な範囲で盛り込むこと。</p> <p>(イ) 提案する講座が全体テーマの趣旨に沿う内容となるよう、「多世代」「<u>地域での助け合い</u>」「<u>地域活動への参加</u>」などの要素を可能な範囲で盛り込むこと。</p> <p>なお、「多様な背景を持った人が生きやすい社会を目指す」視点についても十分考慮すること。</p> <p>(ウ) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「新しい生活様式」が求められる状況下での団体、法人等のニーズを踏まえた講座を可能な範囲で盛り込むこと。</p>